

新規導入された e-learning による英語学習についての意識調査

An Attitude Survey of Students Learning English through the Newly Introduced e-learning System

森田典幸**

岡誠一**

中島美智子**

Noriyuki MORITA

Seiichi OKA

Michiko NAKASHIMA

概要

平成 19 年度のカリキュラム改正により開講した 3 年生の英会話Ⅲ、4 年生の英語総合演習と、5 年生の外国語選択の一科目である英語演習において、学生は 4 月よりサーバー上にインストールされたアルク教育社の ALC NetAcademy2 スーパースタンダードコースの学習を開始した。e-learning による授業は本校外国語科にとっては初の試みでもあり、今後の授業展開の参考にするためにも、学生の e-learning に対する意識調査が必要と考え、前期が終了した時点で学生に対してアンケートを実施した。本稿ではその結果を報告するとともに今後取り組むべき課題について考察する。

I. アンケート調査の目的

e-learning を英語の授業に取り入れることは、学生にとってはもちろん、担当教員にとっても初めての経験であり、前年度の試行授業は経ているものの、授業開始時の前期授業は手探り状態で進めていた感は否めない。より効果的な授業展開を図るためにも早い段階での現状把握が必要であると判断し、学生の意識調査を実施した上で、前回報告で述べた授業計画について見直す点があれば見直し、後期からの授業に生かし、学生の英語コミュニケーション能力の向上へつなげることが本アンケートの目的である。

II. アンケート調査項目

今回のアンケート調査の主要項目は、①初めての試みである e-learning による英語学習に対する意見、②設定された授業進度に対する意見、③授業に取り組む姿勢と、従来の教室で行う授業との比較、④各学習ステップの中から学習者の立場から有効であったと思われるものを選択（各学習ステップの具体的内容は、*前回報告を参照していただきたい）、⑤学習に際して苦労した事の調査、⑥TOEICテスト受験に対する意識、⑦今後

* 原稿受理 平成 19 年 11 月 8 日

** 一般科目

導入してもらいたい e-learning のコース、以上 7 項目である。e-learning の導入と学習意欲の関連性を把握すること、また今後の授業改善に繋がる項目を重視したアンケート調査である。

III. アンケート対象学生と回答率

アンケート対象学生は実際に授業を受けている 3 年生全学科・196 名、4 年生全学科・206 名、5 年外国語選択：英語演習選択者・39 名の計 441 名であり、407 名から回答を得た。回答率が約 92%であるため、本アンケートは対象学生全体の意見を反映しているものと判断して差し支えないと考えられる。

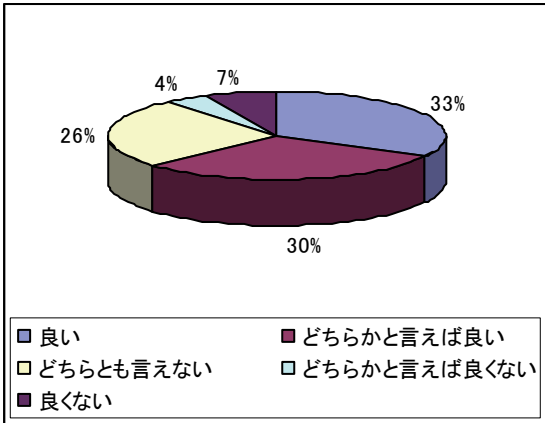
IV. アンケート結果と考察

1. 学習意欲に関する項目

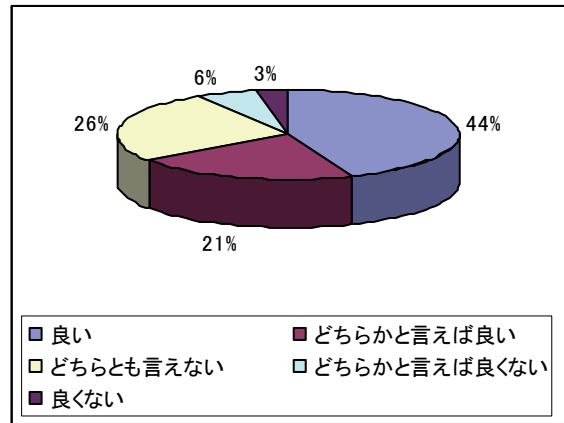
e-learning の導入が学生の学習意欲向上や、動機付けの一因になっているかどうかを知るための質問が以下の 3 点である。

- (1) 質問 1：平成 19 年度より e-learning を授業に導入したことについて、良い どちらかと言えば良い どちらとも言えない どちらかと言えば良くない 良くない

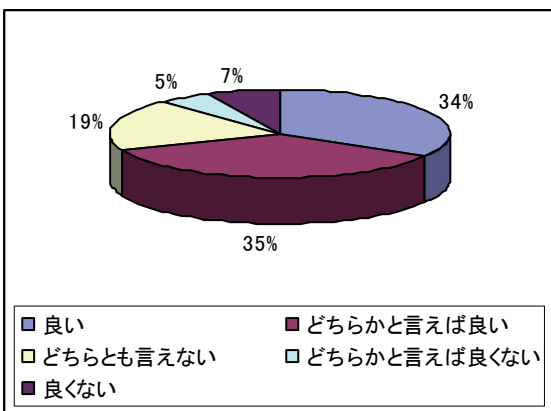
結果 1-1 : 全体



結果 1-4 : 5年

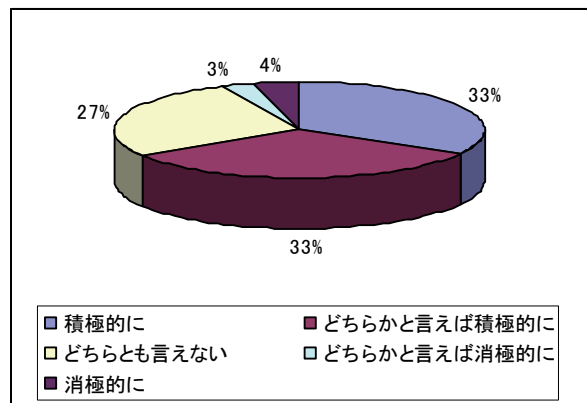


結果 1-2 : 3年

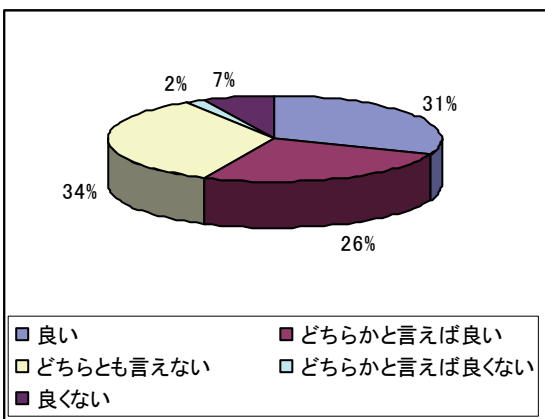


(2)質問 2 : 学習に対して、積極的に どちらかと言えば積極的に、普通に どちらかと言えば消極的に 消極的に、取組めた

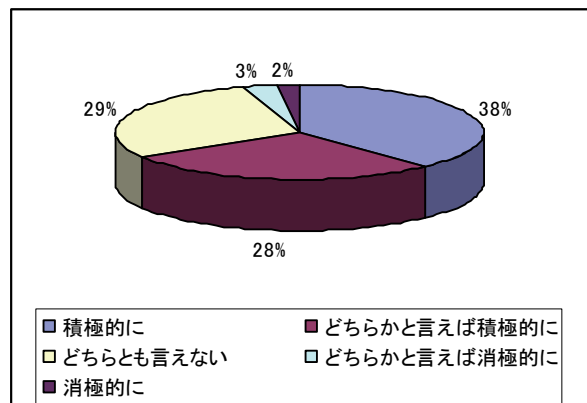
結果 2-1 : 全体



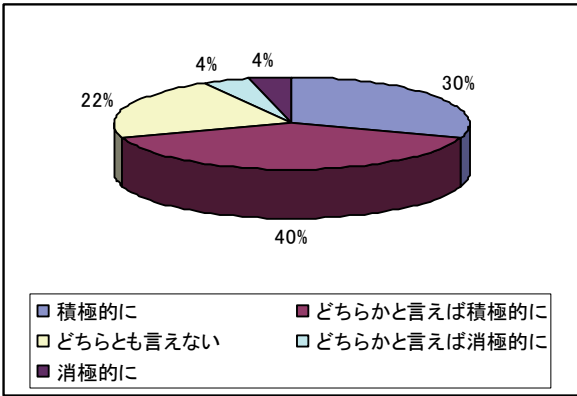
結果 1-3 : 4年



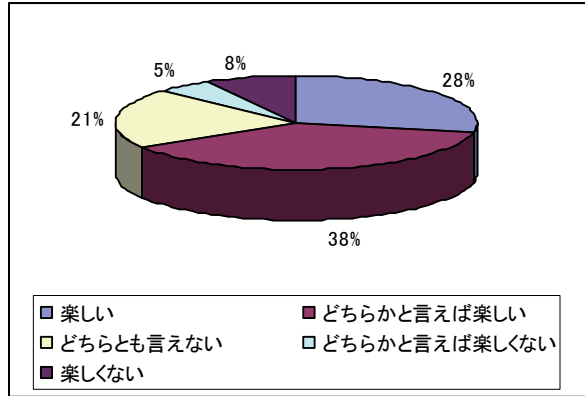
結果 2-2 : 3年



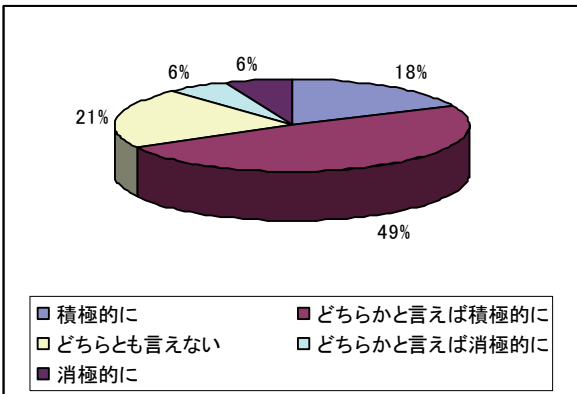
結果 2-3 : 4年



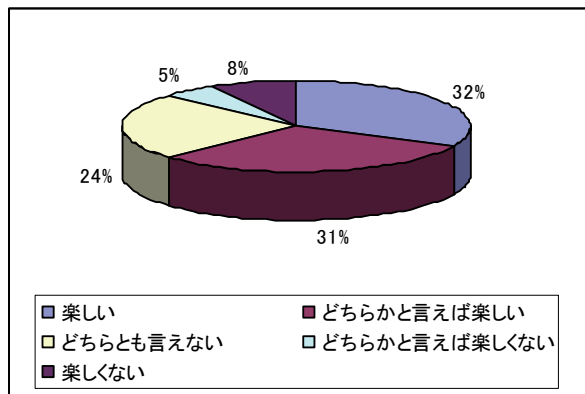
結果 3-2 : 3年



結果 2-4 : 5年

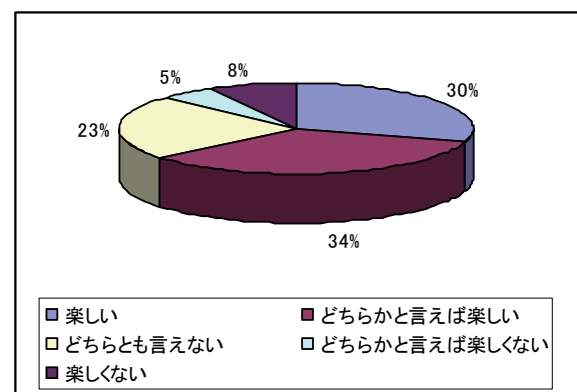


結果 3-3 : 4年

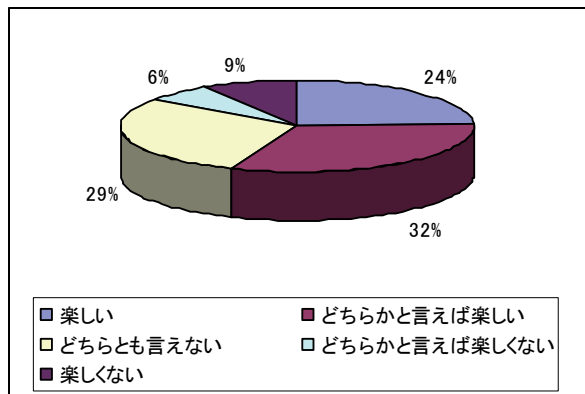


(3) 質問 3 : 通常の教室での英語授業と比較して、
e-learning による授業は、楽しい どちらかと言
えば楽しい どちらとも言えない
どちらかと言えば楽しくない
楽しくない

結果 3-1 : 全体



結果 3-4 : 5年



以上の結果より、英語学習に e-learning を取り入れたことに関しては、6割以上の学生が良い、または、どちらかと言えば良いと回答しており、特に3年生はその数値が約7割に達しており、大多数の学生は、e-learning の導入を歓迎している状況がうかがわれる。そのことは学習に対する積極性に関する質問2に対する回答においても、66%の学生が学習に対して積極的に、または、どちらかと言えば積極的に取組んだと回答していることから裏づけられる。逆に約1割の学生は、どちらか

と云えば良くない、または良くないと回答しているが、質問2で、学習に対して、消極的に、または、どちらかと言えれば消極的にと回答した学生は7%に留まっており、e-learningの導入に関しては疑問があるものの、学習に対しては積極的に取組んだ学生が少なからずいることも推察できる。教室での通常の授業と比較して質問3においても、6割超の学生が楽しい、または、どちらかと言えれば楽しいと感じており、全体としては、e-learningの導入は、学習の動機付けとしては目下のところある程度の効果があると思われる。但し、約1割に相当する学生が、導入のどのような点を良くないと考えているのか、なぜ授業に積極的に取組めないのかという点に関しては、より細かなアンケート調査等を利用し、改善を心がけていく必要がある。

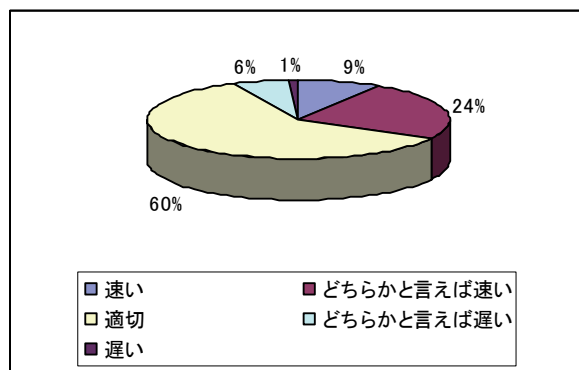
2. 学習進度に関する項目

学習進度に関しては、前回報告における授業利用計画では、第1週のガイダンス、第2週のレベル診断テスト後の第3週より、3年生（1単位）は3回の授業として2ユニットの学習終了、4・5年生（2単位）は1回の授業で3ユニットの学習終了を大まかな学習進度として設定していたが、実際に学習を始めてみると、学生・教官ともに不慣れな点もあり、予想以上に学習終了に時間を要することがわかったため、若干進度を遅くすることにし、改めて前期末試験までの進度設定を行った。前期末試験までに3年生はリスニング・リーディングとも10ユニットの計20ユニットの学習終了、4年生はリスニング・リーディングとも15ユニットの計30ユニット終了、5年生はリスニング・リーディングとも10ユニットの計20ユニットの学習終了をそれぞれの学年の進度目標として設定した。質問4は、改めて設定した進度が適切であったかどうか判断し、後期の授業に反映させるための質問である。

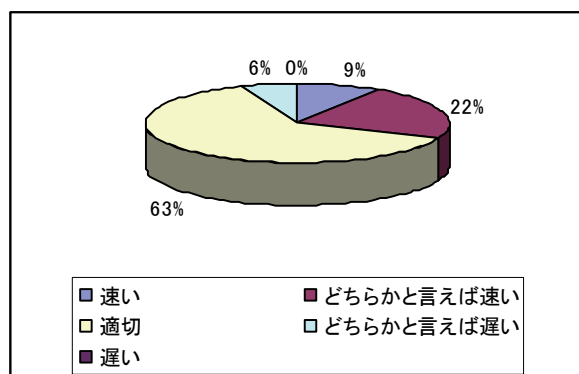
質問4：指定された学習進度は、早い

どちらかと言えれば早い 適切 どちらかと言えれば遅い 遅い

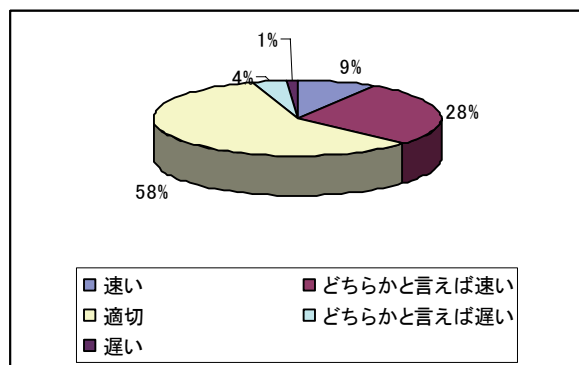
結果4-1：全体



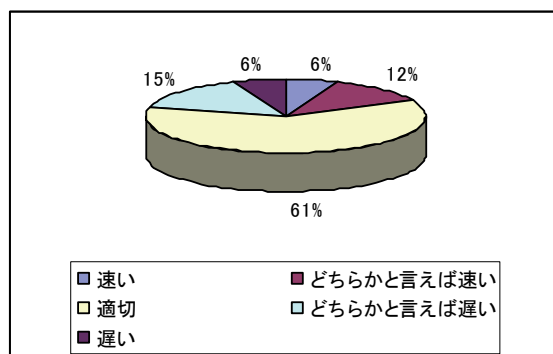
結果4-2：3年



結果4-3：4年



結果4-4：5年



設定進度に対するアンケート調査の結果、約6割の学生が適切と回答しており、全体的には、今後もこの進度

設定を継続して良いと判断できる。但し、5年生に関しては遅い、またはどちらかと言えば遅いと回答した学生（合計21%）が、速い、またはどちらかと言えば速いと回答した学生（合計18%）を上回っており、引き続き学習状況を見ながら若干の進度設定の変更も考慮する必要が生じるかもしれない。速い、またはどちらかと言えば速いと回答した約3割の学生の中には指定されたユニットの学習を授業時間内に終了できなかった学生もあり、そのような学生に対しては放課後に自主学習できるように、毎週水曜日の放課後を中心に el-教室を使用できる時間帯を設定して対応してきた。全体としては7%に相当する、遅い、またはどちらかと言えば遅いと回答した学生に対しては、授業時間内に指定されたユニット学習を終え、時間が余った場合には、さらに先のユニットを学習するか、復習テストを受けるか、または単語道場を行うかを各自で判断させて対応している。

3. 学習内容に関する項目

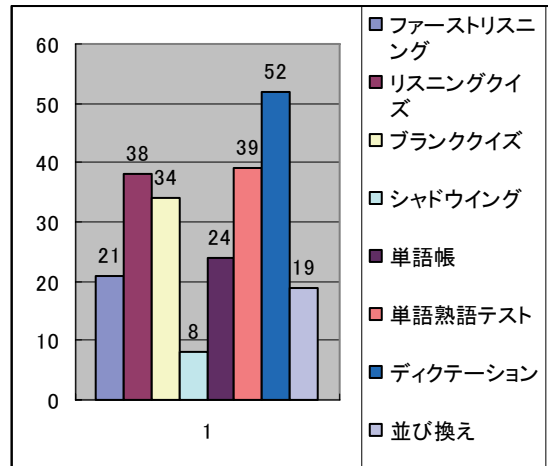
次に、実際に用意されている学習活動の中で、学生が良かったと思うもの、そして実際の学習活動において苦勞した事を挙げてもらったものが以下の4つの質問である。グラフ中の数字は選んだ人数の全体に対するパーセンテージを表している。

(1) 質問5：リスニングの各ステップで良かったと思

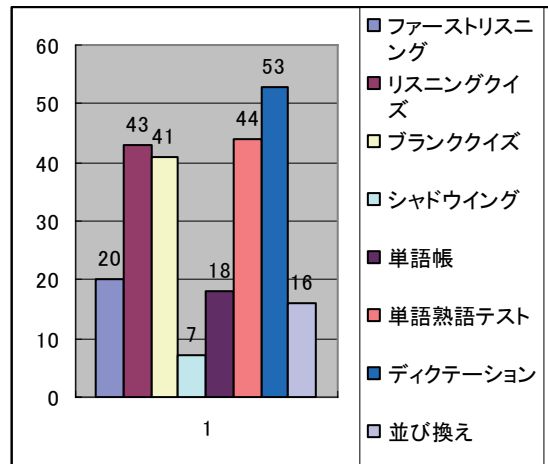
われるものを選んでください。(複数回答可)

- ファーストリスニング リスニングクイズ
- ブランククイズ シャドウイング 単語帳
- 単語・熟語テスト ディクテーション
- 並び換え

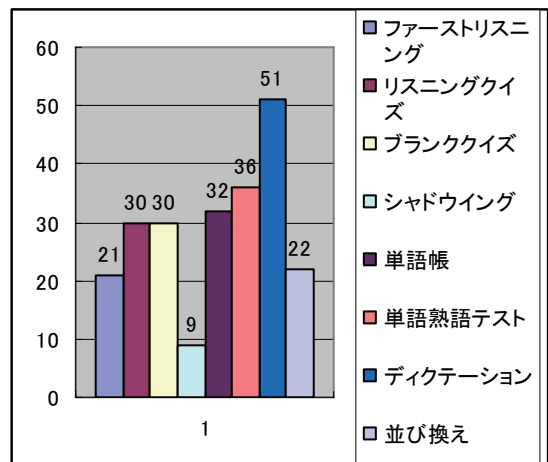
結果5-1：全体



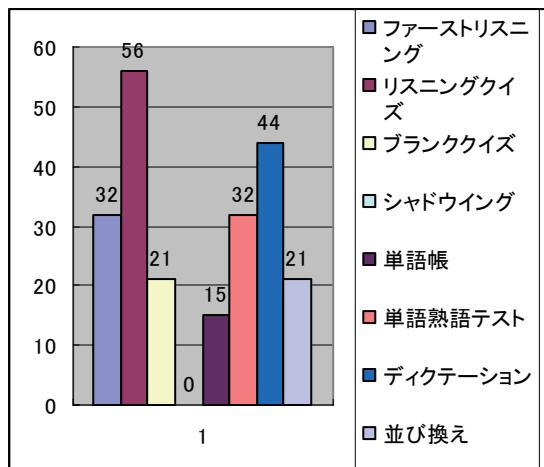
結果5-2：3年



結果5-3：4年



結果5-4：5年



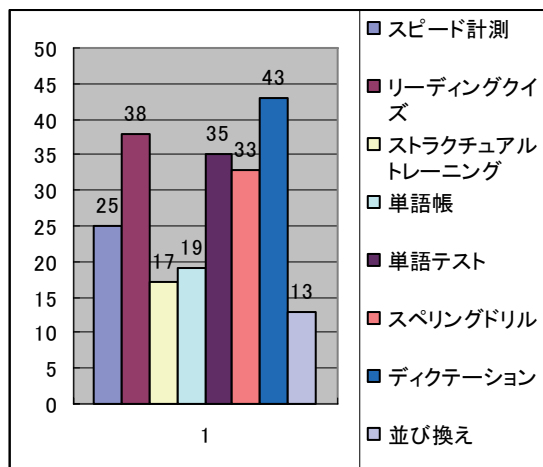
リスニングユニット学習活動の中で、良かったと思われるものを回答（複数回答可）した割合を示したものが表5-1～5-4である。学年によって数値にばらつきはあるものの、全体としては英文を聞いて理解度を測るファーストリスニングとリスニングクイズ、ユニット中の単語・熟語を確認するテスト、聴き取った英文を画面に出力するディクテーションの数値が高くなっている。この結果は、リスニング能力と語彙力を伸ばしたいという学生のニーズを反映しているのではないかと考えられる。一方、非常に残念な結果もある。聴き取ったチャンク（意味のかたまりの語句）やセンテンスを実際に繰り返し発話する練習であるシャドウイングを挙げた学生が非常に少ないことである。画面に向かって発話することに抵抗感や恥づかしさがあることが一因しているとは思われるが、今後は発話することの重要性を認識させ、机間巡視をこまめに行い指導することで、シャドウイング練習を促す必要がある。

(2) 質問6：リーディングの各ステップで良

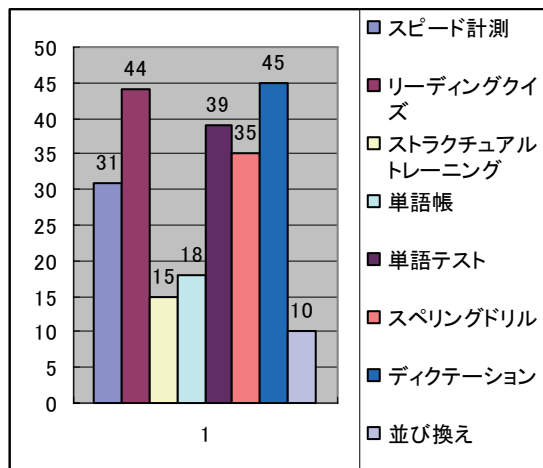
かったと思われるものを選んで下さい。

- ファーストリーディング リーディングクイズ
- 主語動詞ドリルなどのストラクチュアルトレーニング 単語帳 単語テスト スペリングドリル
- ディクテーション 並び換え

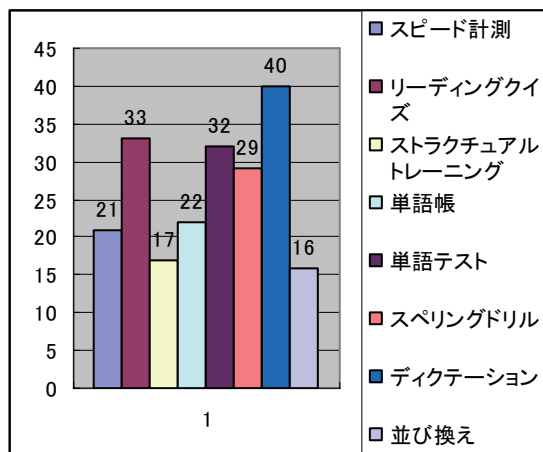
結果6-1：全体



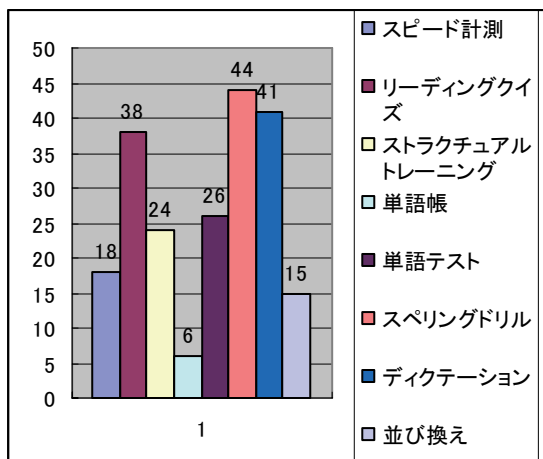
結果6-2：3年



結果6-3：4年



結果6-4:5年

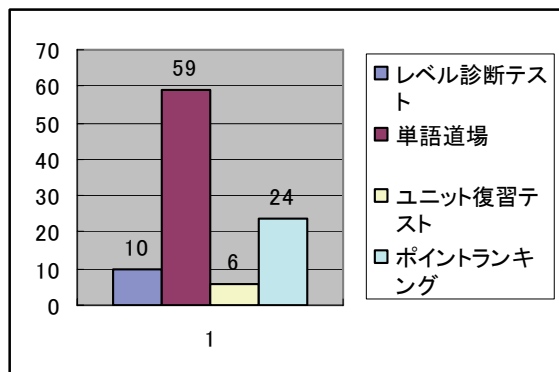


次に、リーディングユニットの学習活動の中で、良かったと思われるものを回答（複数回答可）した割合を示したものが表6-1～6-4である。リスニングの場合と同様に学年によって数値にばらつきはあるものの、全体としては英文を読んで理解度を測るリーディングクイズ、ユニット中の単語・熟語を確認する単語テストとスペリングドリル、聴き取った英文を画面に出力するデクテーションの数値が高くなっている。リーディング能力と語彙力に併せて、リーディングユニットであるにも関わらずデクテーションの数値が高いことから、リスニングに対する学生の関心の高さが伺われる。

(3) 質問7: その他のコンテンツで良かったと思われるものを選んで下さい。

- レベル診断テスト 単語道場
 ユニット復習テスト ポイントランキング

結果7:全体



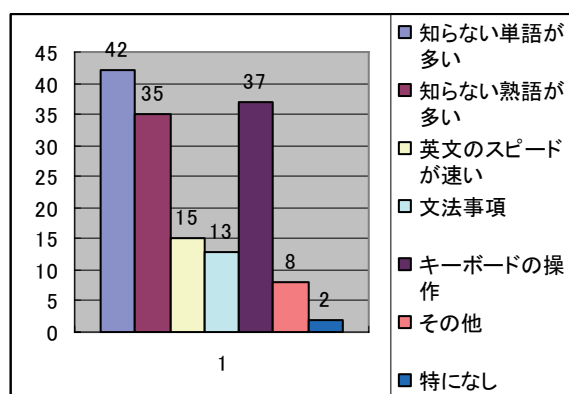
その他の項目では、約6割の学生が、単語道場を挙げている。語彙力を付けたいという学生のニーズと共

もに、10問1ユニットであり、短い時間を利用して、解答、即採点ができる手軽さが現代の学生の気質にマッチしているのではないと思われる。一方、ユニット毎に担当教員が作成しているユニット復習テストを挙げたものは僅か6%にすぎなかった。テスト内容を見直すとともに、復習の方法を考えたい。

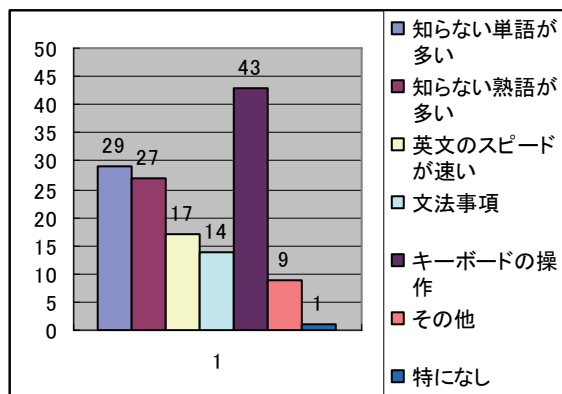
(4) 質問8: 学習を進める上で苦労した事を選んで下さい。

- 知らない単語が多い 知らない熟語が多い
 英文のスピードが速い 文法事項
 キーボードの操作 その他 特になし

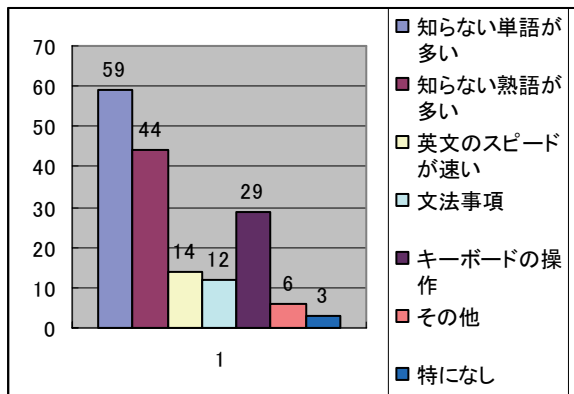
結果8-1:全体



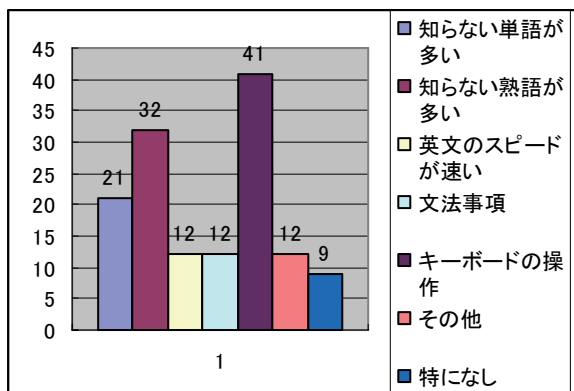
結果8-2:3年



結果 8-3 : 4年



結果 8-4 : 5年



学習中に苦労した点に関しては、全体・学年毎ともに、知らない単語が多い、知らない熟語が多い、キーボードの操作を挙げた学生が多い。語彙力が低いことは学習を進める上での障害でもあり、そのことは3年生よりも早い段階でユニット内容がレベルアップした4年生の数値が3年生と比較すると約2倍に跳ね上がっていることから明らかである。アンケート中では、‘知らない’単語・熟語として扱っているが、中学校時代も含め、低学年時にかなりの語に出会っているはずであるから、実際には‘忘れてしまった’単語・熟語、言い換えれば今までの学習で‘定着しなかった’単語・熟語であると推察できる。語彙力増強に関しては、低学年時より、外国語科全体として取り組む必要があると思われる。次に、キーボードの操作に関しては、具体的には“”・ー・()・\$といった記号入力や半角・全角の切り替えができず、挙手して担当教員に助けを求める学生が予想以上に多くいたのが現状であった。しかし学習が進むにつれてその操作に慣れ、そのような学生は少なくなっているため、この点に関しては徐々に解消されるものと思われる。

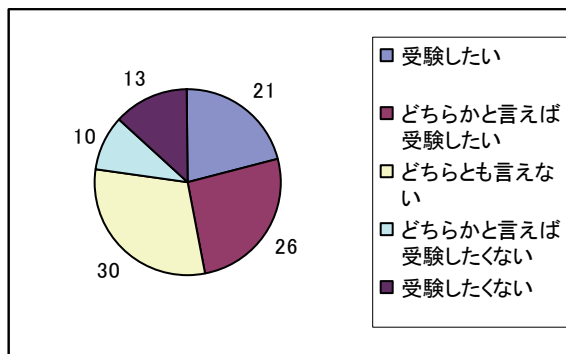
4. TOEIC受験に対する項目

学習中の ALC NetAcademy2 スーパースタンダードコースは平成 18 年度にリニューアルされた TOEIC 試験に対応しており、TOEIC 演習問題も用意されている。この質問は学習を進める中で、TOEIC 受験に対して学生がどのように考えているか知るためのものである。

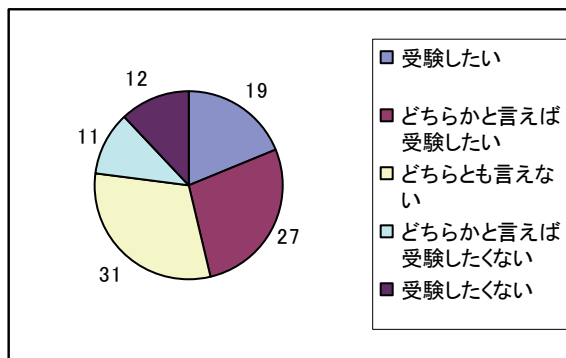
質問 9 : 各ユニットの構成は TOEIC テストに対応したのですが、今後 TOEIC を受験したいと思いますか

- 受験したい
- どちらかと言えば受験したい
- どちらとも言えない
- どちらかと言えば受験したくない
- 受験しない

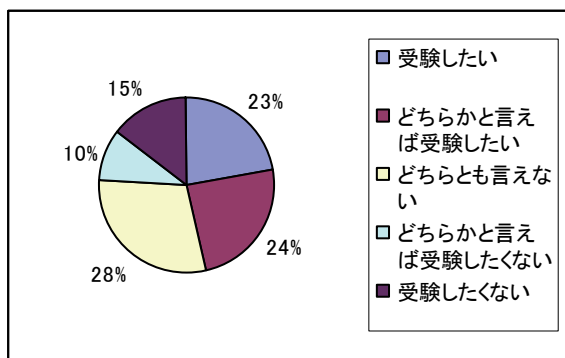
結果 9-1 : 全体



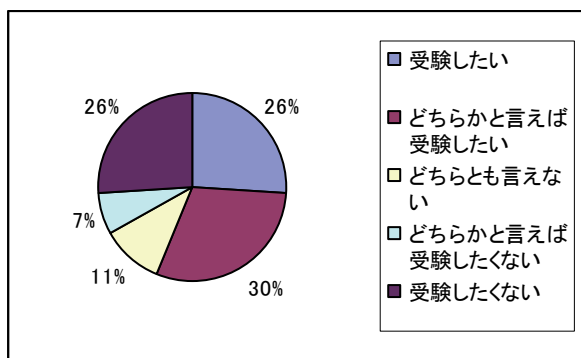
結果 9-2 : 3年



結果 9-3 : 4年



結果 9-4 : 5年



全体としては、約半数の学生が受験したい、またはどちらかと言えば受験したいと回答している。学年毎の数値を見ると、3年46%、4年47%、5年56%と学年進行と共に高くなっている。これらの結果より、就職・進学が近づくにつれ、受験の必要性を感じていることがわかる。今までのデータがないため回答数値として高いのかどうかは判断が難しいところではあるが、学習目標の一つとして、今後TOEICテストを推奨したいと考えている。コースに含まれるTOEIC演習テストを学習すれば、予想スコアが表示される。そのスコア次第では受験を考えていない学生や、どちらとも言えないと回答している学生の中から、受験したい学生が出てくることを期待したい。

5. 今後導入してもらいたいコース

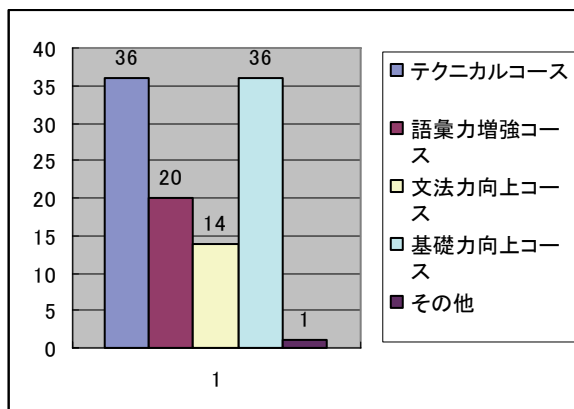
最後の質問として、ネットを利用した教材が増えつつある中で、今後どのようなコースを e-learning で学習したいか尋ねてみた。

質問 10 : 今後 e-learning に導入してもらいたいコースを選んで下さい。

テクニカルコース (工業英語)

語彙力増強コース 文法力向上コース
 基礎力向上コース その他

結果 10 : 全体



アンケート結果より、工業高等専門学校生として工業英語に対する関心が高いこと、また自分の英語力を客観的に判断して、基礎力や語彙力が不足していることを学生自信が認識していることがわかる。IV.1 で述べた様に、学生の e-learning に対する関心は高く、ネット環境が整えられている高専としての特徴を生かし、幅広い内容の学習ができるように他のコースの導入を視野に入れていくとともに、学生のニーズが高い科学技術英語に重点をおいた教材の自主開発についても検討していきたい。

V. アンケート結果による授業改善と今後の課題

1. 授業改善

アンケート調査の結果、復習テストの利用が少ないことがわかり、また“学習した内容のテキストがあれば自宅でも復習ができる”とコメントした学生もあった。そこで後期より 3・4 年生に対しては、前回の授業で学習した内容をテキストにし、重要な部分を空白にして答えたり、単語や熟語を確認するためのプリントを授業毎に準備・配布し、前回の内容の復習を終えてから新しいユニット学習に入ることで、その場限りであったユニット学習に継続性を持たせている。また、授業中にはこまめに机間巡視を行い、学生の学習状況を把握する心がけをしたい。特に、アンケート結果を受け、シャドウイング学習に積極的に取り組むように促したい。現在 e-learning の授業は 2 人の教員で行っているが、お互いに連携をとり、協力して授業改善に努めたい。

2. 今後の課題

アンケート結果を受け、次の2点を今後の課題として取り上げたい。まず、IV.1. で述べたように、大多数の学生は e-learning の導入を良いと考えていることに満足せず、約1割の学生に視点をあて、導入のどのような点を良くないと考えているのか、なぜ授業に積極的に取組めないのか、より細かなアンケート調査等を利用し、原因をつきとめ対応していく必要がある。次は、教員間の連携である。IV.3.においては、学生の語彙力を高めるために外国語科全体で取組む必要性について述べたが、もちろん語彙力に限ったことではなく、総合的な英語の力を高めるために、学年間・学科間で今以上に連携・協力していくことが必要であると思われる。さらには、科学技術英語の e-learning 教材の開発に向けては、例えば、エンジニアとして必要とされるテクニカルタームの調査やソフトの編集において、外国語科の枠を超えて一般科全体、他学科との連携も視野に入れて検討を始めた

謝辞

本報告作成にあたり、407名の学生のアンケート結果集計に多忙にもかかわらずご協力頂いた、一般科目、永井猛先生と中井大造先生に心より御礼申し上げます。

*註

*本稿に用いられている“前回報告”とは、本稿と同じく、『米子工業高等専門学校研究報告』43号に取められた「e-learning 学習システムの新カリキュラムへの導入」のことである。